

委員会行政視察報告書

平成30年 5月25日提出

井原市議会議長 西田久志 様

報告者 建設水道委員会

委員長 荒木謙二

副委員長 坊野公治

委員 多賀信祥

委員 細羽敏彦

委員 上野安是

委員 大滝文則

議長 西田久志

期 間	平成30年4月27日（金）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	岡山県高梁市 平川村定住推進協議会：江草健治会長、江草孝一副会長、 江草啓朗氏、事務局（高梁市備中地域局 福田局長、松田主査） 岡山県久米郡久米南町：産業振興課 中力課長、立川主幹
出張者氏名	荒木謙二、坊野公治、多賀信祥、細羽敏彦、上野安是、大滝文則 西田久志議長、柳本兼志（議会事務局）
調査項目	平川定住推進協議会：新規就農と地域の関わりについて 久米南町：新規就農者住宅について
(概要)	別紙のとおり
(所感)	別紙のとおり

(概要)

・岡山県高梁市 平川村定住促進協議会【新規就農と地域の関わりについて】

①地区内の状況把握（平成19年度に地区内でアンケート調査を実施）

経営主平均年齢 69.7歳（70歳以上が57.5%）

経営可能年数 15年未満が49%

新規参入受入れ 賛成75.8% 反対15.2%

②新規就農者確保に向けた取り組みを開始

「体感・田舎暮らし事業」を平成20年から実施

体感・田舎暮らしを募集（年2回）

⇒募集要項・就農条件の提示（トマト・ブドウ）平川地区を見てもらう

⇒書類選考・面接・農地・指導農家・営農計画等調整

⇒1～6か月程度体感・田舎暮らし（マッチング期間）

⇒定住・就農（県制度等利活用）or キャンセル

③募集条件

・地域の特産品であるトマト・ピオーネ栽培に興味がある方で将来的に当地域に定住し、農業を営む意欲のある方

年齢制限／原則既婚者で、主たる農業従事者の年齢が60歳以下の方

自己資金／当面の営農・生活資金を所有している方

栽培（体験）作物／トマトまたはピオーネ

④実績

H20年度 参加者3名 就農1名

H21年度 参加者3名 就農1名

H22年度 参加者1名 就農1名

H24年度 参加者1名

H25年度 参加者1名 就農1名

H26年度 参加者4名 就農2名

H28年度 参加者1名 就農1名

H29年度 参加者2名 体験中

⑤結び

平川村定住促進協議会は、今後も「体感・田舎暮らし」への新規募集を行うとともに、就農希望者が平川地区に定住する上で必要となる「農地」「住宅」「地域とのつながり」の3つの課題を中心に、円滑に就農できるよう協議会が地域の中心となって積極的に取り組みを継続していく。

・岡山県久米南町【新規就農者住宅について】（現地視察を含む）

①新規就農者の推移

H25年度 桃2名 ぶどう1名 その他（水稻等）1名

H26年度 桃4名 ぶどう1名

H28年度 桃1名 ぶどう1名

H29年度 桃1名 ぶどう6名 その他（水稻等）2名

②住宅の確保

新規就農者住宅（H25年度事業）

長屋建住宅建設 戸数2戸 2LDK（85.15㎡） ※テニスコート跡地

家賃 月/ 25,000円

車庫間作業場付（47.25㎡）

事業費 45,068,950円（町費）

入居資格

- ・久米南町に就農して5年未満で55歳未満の者
- ・3年以内に久米南町で就農することが確実な農業研修者で55歳未満の者
- ・久米南町の農業振興につながると認められた55歳未満の者

以上のいずれかに該当し、就農から5年以内に専業農家として独立可能な経営計画を立てているもので、現に住宅に困窮しているものであること。

使用期間

- ・既就農者・・・5年以内
- ・農業研修者・・・8年以内（ただし、就農日から5年以内）
- ・上記以外の者・・・5年以内

③町の目標

久米南町人口ビジョン 目標人口 2060年 3,601人

総合戦略の4つの基本目標

- ・子育て環境を整え、魅力あるまちづくりの推進
- ・地域を支える担い手の移住・定住促進
- ・持続的な地域経済の維持
- ・持続的な地域力の創出と維持

小さな町の定住対策は、1組の移住者にどれだけ多くの人に関われるかがカギ

※ この概要は、委員長がとりまとめ、委員会において委員全員で確認したものです。

(所感)

委員長 荒木謙二

・岡山県高梁市 平川村定住推進協議会

農業者の高齢化等により、担い手が不足していることから、新規就農者等の確保・育成への取り組みとして、状況を把握するためのアンケートの実施、その後「平川村定住促進協議会」を設立し、「体感・田舎暮らし事業」を平成20年から実施され、現在は、7名の新規就農者を受け入れられている。

マッチング後は、県のトータルサポート事業や農業普及センター、行政、JAとの連携により手厚いサポート、また、地域住民との交流も盛んに実施し、新規就農者が地域に溶け込みやすくされ、懸念の住居、農地、施設、設備、機械等もこの協議会が調整、仲介をされている。

井原市においても「ぶどう部会」をはじめ、新規就農者等の確保・育成への取り組みを実施されているが、住居、農地等の確保は課題としてあるのが現状である。今後は、議員として新規就農者が確保でき、地域農業の健全な発展と農村地域の活性化が図られるように努めていかなければならないと考える。

・岡山県 久米南町

新規就農者住宅の経緯等を見聞し、2戸だけとはいえ補助金なしの単町の建設は、思い切った事業であると関心をした。今後は、同様の事業の実施は現在のところ考えてはないとのことではあるが、新規就農者の住宅確保については、「空き家バンク」の利活用、補助金等支援制度を設け、移住に努められている。

井原市においても、移住・定住施策は充実していると思うが、各市町同様の制度を設けており、われわれ議員も井原市が如何に魅力あるまちであるかを発信し続けていかなければならないと考える。

(所感)

副委員長 坊野 公治

・岡山県高梁市 平川地区定住推進協議会

平川村定住促進協議会が積極的に新規就農者の受け入れを行っている。県の補助なども積極的に利用している。紹介するだけでなく、ちゃんと定住できるまでいろいろ相談にのっている。「家族が増えたような気持でおこなっている。」と本当に親身になって行っている。井原市においても、もっと積極的に地域に溶け込む組織作りが必要と考える。

・岡山県久米南町

合併していない町で、地場産業も少ない中で新規就農を積極的に町を挙げて行っている。空き家がほとんど無い状況で、新規就農者用住宅を2棟建設している。

井原市においては、現在新規就農者用住宅建設の考えはないが、芳井町、美星町においては就農に対して真剣に考えるべきであり、空き家バンクへの登録が進まない井原市においては、作業場建設に対する補助、新規就農者用住宅も検討していくべきと考える。

(所感)

委員 多賀 信 祥

・岡山県高梁市 平川村定住推進協議会

仕組みとして地域での受け入れ体制をしっかりと整えられていると感じた。

新規就農者が農家として定着することに対して人的な課題、設備的な課題により困難を招くと言われているが、当地域ではそれらの課題にも地域として取り組み、届かないところにおいては行政と協働で取り組まれていた。地域の協議会と行政の協働があってこそその事業だと感じた。

・岡山県久米南町

合併せず人を呼び込む手段が農業だけとの危機感からの事業と聞き、芳井地区、美星地区においても合併していなければそのような取り組みをしていたかもしれないと感じた。現在では空き家、圃場の確保に苦慮していると聞きおどろいた。久米南町の事業、移住定住施策についても継続性を考えると事業者や地域住民との協働が不可欠だと感じた。

(所感)

委員 細 羽 敏 彦

○岡山県高梁市 平川村定住推進協議会

- ・住宅の確保（旧教員住宅をリフォーム）をしている。
- ・就農条件として、平川地区を見てもらっている。
- ・特産品であるトマト・ピオーネの農業体験をしてもらっている。
- ・農業体験だけでなく、地域の行事にも参加してもらっている。
- ・就農希望者と地域の方と交流をしている。

○岡山県久米南町

- ・高齢化率 44.03%（県内1位）
- ・企業誘致しても、人材確保が難しい
- ・主な産業は農業、観光
- ・新規就農者の住宅確保（戸数2戸、2LDK、家賃 25,000円/月、車庫兼作業場付）をしている
- ・特産品はゆず（出荷量県内1位）、ピオーネ、きゅうり（生産出荷量県内1位）

(所感)

委員 上野 安 是

定住、就農希望者のニーズにどこまで沿うことができるかが肝要となる。

平川村定住推進協議会も久米南町も、希望者ニーズを的確に把握し、それに沿っていこうとする形がはっきりと見えた。

既定住者、既就農者の意見もしっかりと参考にし、新規定住希望者、新規就農希望者を迎える準備を万全にしておかなければならない。

行政または受け入れ団体がどこまで潤滑油となれるかが鍵となる。

(所感)

委員 大 滝 文 則

今回の委員会視察は、井原市において移住者（特には農業従事者）に対応すべき受け入れ体制や住宅等の支援制度による定住促進施策に関連し、先進的に取り組まれている高梁市平川村定住促進協議会及び久米南町においての取り組みについて視察させて頂きました。

いずれの地域も人口減少による地域の衰退を深刻な問題としてとらえ、農地・住宅・地域とのつながりを大きな課題としてとらえ、その解決に向けての支援策を独自に作られていました。

ここで感じる事は、市役所・地域・生産団体等の連携は不可欠であると感じるとともに、やる気になればかなりの施策が可能であるという事です。

井原市においても、地域住民や生産者団体等の要望を的確にとらえて積極的にこれを支援する体制を早急に整理構築して頂きたいと感じました。

(所感)

議長 西 田 久 志

・岡山県高梁市 平川村定住推進協議会

平川地区では平川村定住推進協議会を設立されており、定住に向け積極的に活動されている。国及び県の補助金を活用されておることはわが市と同じであるが、平川地区と高梁市が強力に定住に向け研究されていることが、いろいろな施策で伺える。

隣県の福山市と近いこともあり福祉関係及び教育環境は充実しており新規就農者には心強いと思える。また、地域の環境も素晴らしく、75%以上の人が新規参入者の受け入れを認めている。そして、井原市では温暖化が進みピーナーネの栽培が難しくなっているが平川地区では適していると言える。県が奨励する儲かる農業として、ぶどう、トマトの栽培の適地として新規就農者にとってうってつけであろうと思う。

新規就農者に対して、栽培指導や地域に溶け込むために地域活動に参加するなど地域交流にも積極的によびかけている。

新規就農者の一番の問題である住居の問題も地区民の協力を得て空き家、もしくは、教員住宅の払い下げなどを行い対処している。

平成20年度から7組の定住がなされていることを見ても、環境の良さが伺える。

井原市も、新規就農のためにいろいろな施策を行っているが、定住を促進するためには、倉庫付住宅の確保が急務であろうと考える。

・岡山県 久米南町

久米南町での特筆すべき点は、久米南町新規就農者住宅条例の制定であろう。

特に、条例第2条第1号に就農者住宅を「就農及び定住を促進するため、町が建設し、第5条に定める要件を満たすものに賃貸するための住宅及びその付帯施設をいう。」としている点。

久米南町では、テニスコートの跡地に2棟の新規就農者用住宅を建設されていた。現地視察で現地に赴き、農作業には十分な広さの作業場があり環境の良さに驚いた。しかし、久米南町も空き家の確保は難しく、古い空き家で我慢をして最終的には自分で建てておられるようだ。新規就農者の住宅確保という目的だけで就農者住宅を建設することはなかなか難しいという感じはしている。とのことでした。

今回の視察研修で感じたことは、決断だと感じました。現在、都市部へ人口が集中する中、農業を考えておられる方は少ないけれど環境さえ良ければ地方へ就農してもいいと考えられておられる方はいると思います。そういった人を引き留めるためには、環境の整備が必要であろうと考えられます。地域の環境、教育の環境、農業施策の環境。特に、住宅の環境整備が重要であろうと考えます。倉庫付住宅の整備は改めて急務だと感じた。